

●目をつむる勇氣

親にも先生にも言えることですが、とにかく大人は子どもの短所に目がいきがちです。「〇〇ができない。□□も苦手だ」と、足りない点ばかりを数えている人がたくさんいます。

私が多くの事例を見てきてわかったことは、短所に注目していつまでもそこをつついても決してよい芽は出ないということです。

大人は同じことを叱り続け、子どもはどんどん自信をなくし、すべてにおいてやる気を失います。叱られたストレスが兄弟や友達とのけんかの原因になり、それでまた叱られます。万事において悪循環が続くことになります。

それよりも、本人の好きなことや熱中できることを応援して、たくさんほめて、先に伸ばせるところをどんどん伸ばしてあげてください。すると、子どもは自信がついて生き生きしてきます。がんばるエネルギーもわいてきて生活全般に張りが出ます。

これによって、いつの間にか短所が直ることもあります。直らないまでも、目立たなくなるということは非常によくあることです。

ほめてくれる親や先生の話は素直に聞く気になれますし、心が満たされているので兄弟や友達にも優しくなれます。つまり、万事においてよい循環が始まるのです。

悪循環を絶ってよい循環に変えるために、絶対に必要なのが、思い切って短所に目をつむる勇氣です。まずこれがないと、いつまでも同じことを続けることになり、循環の方向を変えることは決してできません。

というわけで、ぜひ思い切って、つまり今までの思いを切って、目をつむる決意をしてください。そうすれば必ずよい循環が始まります。

~~~~~

### ●共感型と正論型、あなたはどっち？

もし、子どもが「〇〇先生に叱られて頭にきちゃった」と言ったら、あなたはどうしますか？「そんなこと言っちゃダメでしょ。明日ちゃんと謝りなさい」と言いますか？

あるいは、「どうしたの？」「他にも騒いだ子はいたのにぼくだけ叱られたんだよ」「それはイヤだね」と続けますか？ 私は前者の正論型より後者の共感型を強くお勧めします。

子どもが「けんかしちゃった」「部活をやめたい」「〇〇が欲しい」などと言ってきたとき、正論型の人はいつも「ダメ」や「ノー」で門前払いしてしまいがちです。

でも、これだと子どもは「話せば叱られるだけ。どうせわかってもらえない」と感じて本音を話さなくなります。ストレスを溜め込み、親に対しても素直になれなくなります。

親に共感型の対応をしてもらえると子どもは安心して本音が話せます。ストレスを溜め込まずにすみ、気持ちも安定します。そして、「自分のことをわかってくれる」と感じて相手を信頼するようになります。

もちろん、共感だけでは終われなくて、「ノー」やアドバイスが必要な場合もあります。その場合も、共感しながらたっぷり聞いてあげた後にしてください。

十分聞いてもらえてスッキリした気持ちになっていれば、子どもの中に相手の話を聞く

余裕が生まれるからです。

子どもにとって信頼できる大人とは、自分のことがわかってくれる人、つまり共感してくれる人のことです。このことを理解して実行すれば、子どもに信頼されていい人間関係を築くことができます。すると、子どもに何か指示したいときも強く命令したりおどしたりする必要がなくなります。

~~~~~

●どの子にもオリジナルな成長ペースが内在している

子どもの成長は百人百様で、どの子にもその子独自のオリジナルな成長ペースが内在しています。早い子もいれば遅い子もいるのです。今の大人は子どもの促成栽培を目指がちですが、早ければよいということではありません。

小さいときは手がかかったりパツとしなかったりしても、後になってぐんと伸びる子、尻上がりに伸びていく子はたくさんいます。

親や先生は「なんで、この子はいつまでもこうなの」と思いますが、その子は今そういう状態にいる内面的な必要性があるのです。そして、外からは見えなくても、本人の内側では確実に変化しているのです。

それは、さなぎの状態と同じです。さなぎは外からは変化が見えません。でも、内側では確実に変化が起こっていて、時が来れば羽化して成虫になります。

同じように、親や先生が子ども本人に内在するペースを大切にしていれば、必要な発達段階をしっかりと踏み固めながら進むことができます。無理に急かすと課題をこなさないまま進むことになりかねません。

ですから、親には待つ能力が必要です。待てない人は子どもの内なるペースを乱します。みなさん、ぜひ待てる親であってください。

~~~~~

### ●ほめるコツ、それは部分をほめること

ほめることの大切さはわかっている。でも、実際はなかなかほめられない。このような声をよく聞きます。そういう人にオススメなのが部分をほめるという方法です。

例えば、野球の試合で活躍しなかったとしても、「思い切りバットが振れたね」「全力で走る姿がかっこよかった」「すごくいい声が出てたね」などとほめます。

性格や行動の面でも同じです。至らない部分や苦手なことには目をつむって、ほめられる部分をほめましょう。

でも、実際は、その反対にほめられる部分には目をつむって、至らない部分を見つけ出して咎めている人がほとんどです。親がこのような粗探しの名人だと、子どもはたまりませんね。

この「部分をほめる」方法は、あらゆる相手・状況において有効です。なかなか人をほめられない人は、ぜひ実践してみてください。

### ●身近な人にこそ思いやりを

職場で誰かがコーヒーカップを落として割ったとします。あなたは「だいじょうぶ？ けがはない？」と言いながら片づけを手伝うと思います。「服は汚れなかった？」と心配したり、かわりのコーヒーを入れてあげたりするかも知れません。間違っても、「何やってるの！ 気をつけなきゃダメでしょ」などと責めたりはしないはずです。

ところが、自分の子どもが同じことをした場合は、まったく違う言動になります。ほとんどの人の最初のひと言は、「だいじょうぶ？」ではなく「何やってるの！」になると思います。「なんでそんなにそそっかしいの？ 気をつけなきゃダメでしょ」とか「落ち着きがないからだよ！」などと言ってしまうかも知れません。

また、例えば職場の同僚が仕事が大変だと愚痴をこぼしたとしたら、あなたは「本当に大変だよ。イヤになっちゃうよね」と共感するはず。間違っても、「仕事なんだからしょうがないでしょ」などと正論で責めたりはしないはず。

ところが、子どもが宿題の愚痴をこぼした場合は、「何言ってるの。ちゃんとやらなきゃダメでしょ」となります。なぜかという、「子どものため。しつけや教育のため」という思い込みと「親だから許される」という勘違いがあるからです。

そして、この思い込みと勘違いこそが、親子の人間関係を崩壊させる最大の原因です。親子関係が崩壊すると、しつけや教育どころではありません。子どもの人格形成にも影響しますし、親子で長い間苦しむことにもなります。でも、親にはそれが見えていません。

他人同士の場合は、よい人間関係をつくらないと自分が苦しくなることが目に見えています。それで、相手の気持ちを汲んだ思いやりのある言動ができるのです。本当は、職場の人間関係よりも、親子の人間関係の方が大切です。親子だけでなく、夫婦関係や兄弟関係もそうです。私たちは、本当に大事な人間関係を粗末にしています。一番身近で大切な人に対してこそ、相手の気持ちを汲んだ思いやりのある言動をしていきたいものです。

~~~~~

●最高の親子関係と他人以上に冷え切った親子関係

これはある60代の男性の話です。その人は自分の息子を育てるに当たって、「世間後ろ指を指されなくきちんとした人間にしたい。大人になって本人が恥ずかしい思いをしないようにしっかりしつけない」という気持ちが強くあったそうです。

それで、小さいときから「また〇〇してない。なんで〇〇しないんだ。〇〇しなきゃダメだ」と毎日叱って育てました。あるとき、「使った物を片づけてなかったら捨てるぞ」と宣言し、子どもが作りかけのプラモデルや遊び途中のボードゲームを庭に捨てました。

食べ物の好き嫌いを直そうと、子どもが嫌いな物を毎日食卓に出したり、無理矢理食べさせたりしました。正直な人間に育てたいと考えたので、子どもがちよつとでもウソをつくと徹底的に追究して叱りました。

一事が万事この調子でした。その結果、息子は何かにつけ自信がないおどおどした感じの青年になりました。当然ながら父親のことが大嫌い、一緒に空気を吸うのも嫌だそうです。父親から離れたい一心で遠くの大学に進学し、そのままそちらで就職しました。

今は結婚して子どももいます。父親に会いたくないので結婚式は夫婦2人だけで済ませました。そして、年に一度だけ母親に会いにきます。父親がいない日を母親に教えてもらい一人で来ます。そして、母親に会ったらすぐ帰ります。父親とはもう何年も会っていま

せん。一生会うつもりはないそうです。自分の住所は両親共に知らせてありません。

父親は、自分のおこないを振り返って「叱りすぎた。もう一度息子がゼロオの時からやり直せたら」と嘆いています。本当は、親子だったら最高によい人間関係になれたはずで、ところが、他人以上に冷え切った関係になってしまいました。

この親子だけでなく、世間には他人以上に冷え切った親子関係はけっこうあります。その原因の第一歩はやはり親にあると言わざるを得ません。親という権力的な立場に甘えて、「この子のためだ。しつけのためだ。ひどい言葉も親なら許される。自分の子どもに何の遠慮がいるのか？」とやりたい放題。その結果は自分で刈り取らなければならないのです。

今現在このような道を進みつつある人はいませんか？今すぐ方向転換してください。

~~~~~

### ●子育ての初心に戻って親の欲を見つめ直そう

みなさん！子供が生まれたときのことを思い出して、初心に戻ってください。「生まれてくれてありがとう」「なんて愛おしいんだろう」。そういう気持ちでいっぱいだったのではないのでしょうか？そのときは、子供に多くのことを求めていなかったはずで

それが、今ではどうでしょう？「勉強ができる子になってほしい」「運動もできてほしい」「片づけも…」「挨拶も…」「生活習慣も…」などと、子供に求めることが際限なく増えてしまっています。そして、できないからと言って叱り続けています。

「親の願い」と言えば聞こえはいいですが、実はすべて親の欲です。ありのままの子供を受け入れずに、もっともっとと求める気持ちは、欲以外のなにものでもありません。この親の欲のために子供たちは苦しんでいます。

今夜、子供の寝顔をじっくり見てみてください。あどけない寝顔を見ているうちに、子供が生まれたときのことが思い出されてくると思います。そうすれば、親としての初心も思い出されてくるはずで

忙しい生活の中で追われまくっていると、子供のかわいい寝顔を見る時間も取れません。それで、いつの間にか親を困らせる顔ばかりがその子の顔だと思えてくるのです。

寝顔こそが子供の本来の顔です。親を困らせる顔は、その子の本来の顔ではありません。子供が起きているときそういう顔にならざるを得ないのは、もともと親が子供のありのままを受け入れずに、自分の欲を押しつけているからなのです。

子供はみんな一生懸命やっています。サボっている子など一人もいません。もって生まれたその子独自の成長ペースというものが、みんな自分のペースでがんばっているのです。小さいときから何でもしっかりできる子もいれば、そうでない子もいます。後で尻上がりに伸びる子もいますので、成長が早ければいいというものではないのです。それがわかっていないと、親が子供のペースを乱すことになり、子供に多大なる迷惑をかけることとなります。

■■■■無料メールマガジン■■■「親力で決まる子供の将来」■■■■■■■■■■

23年の教師経験を生かし、子育て、しつけ、勉強法、家庭教育について具体的に提案。メールマガジンの登録と解除は、下記HPより30秒。(講演のお問い合わせもHPから)

<http://www.oyaryoku.jp>

親力  検索

●子どもを幸せ体質にしてあげれば将来も幸せになる

千葉県のあるお母さんは、長男に中学受験をさせたいと考え、この夏休みは猛勉強させようと張り切っていました。でも、本人は一向にエンジンがかからず、お母さんは毎日叱りつけながら勉強させています。

大阪のあるお父さんは、子どものだらしがないのを直そうと決意し、「出したら片づける」「やるべきことを先にやる」「字をていねいに書く」の3つについて、毎日口うるさく叱っています。そして、「出しっぱなしの玩具は庭に捨てる」「雑な字は全部消して書き直し」と宣言して実行しています。

このように、毎日叱り続けて、子どもを不幸せにしている親たちがたくさんいます。そして、その心の中にあるのは「この子の将来のために今のうちに…」という思いです。

これは、本人たちは意識していないと思いますが、子どもの将来の幸せのためには、今の毎日は不幸せでよいと考えているということです。私はこういう考え方は根本的に間違っていると思います。

というのも、毎日叱られている子は、「自分はずっと叱られてばかりだ。本当に自分はダメだな。何をやってもうまくいかない。お父さんもお母さんもぼくのことをダメな子だと思ってる。ぼくのこと嫌いなんだろうな。毎日つまらないな」といった思いでいっぱいになり、これがその子の基本的な自己認識になってしまうからです。

こうなってしまうと、いつまで経っても幸せになれません。不幸せが身について不幸せ体質になってしまうのですから、幸せになれるはずがありません。

子どもには、ぜひ次のような自己認識が持てるようにしてあげて欲しいと思います。「自分はけっこういい感じだ。お父さんもお母さんもぼくのことをほめて認めてくれる。大切に思ってくれているんだ。うれしいな。元気が出てくるな。あれもやってみたいな。これもやってみたい。ぼくは絶対できるよ。ああ、毎日楽しいな」。

言い換えると、幸せ体質にしてあげるということです。子どものときの一日一日が幸せなら、その延長線上で自然に将来も幸せになります。ですから、将来の幸せのために今を犠牲にするという発想の子育てはやめて、今の一日一日を幸せにしてあげてください。

●「やってあげると自立ができない」というのは罪深い迷信

自分で起きない子を起こしていると、いつまでも起きるようにならない。片づけができないのをやってあげていると、いつまでもできるようにならない。自立ができない。

このような話が子育ての本によく出てきます。でも、本当はそんなことはありません。こういう話は迷信です。しかも、実に罪深いです。

この迷信のせいで、親たちは子どもができないことを手伝ったり、やってあげたりすることができなくなっています。たとえやってあげるにしても、叱りながらできないのです。そのせいで、多くの親と子どもが不必要に苦しんでいます。

もちろん、子どもが苦手なことは、できるように工夫してあげることが大切です。片づけが苦手なら、ワンタッチ収納、ラベリング、片づけタイムなどです。でも、それでもできないことは多々あります。親子ともどもどうしようもないときがあるのです。そういうときどうするかが大切です。

そういうとき、ほとんどの親は、「また〇〇してない。ダメでしょ」と否定的に叱りま

す。それで、子どもはますます苦手意識が高まり、よけいできなくなります。否定的な言葉を浴び続けることで、「自分はダメな子だ」と思うようになり、「自分は愛されていないのかも」という愛情不足感を持ちます。こういう負の連鎖で、ますますがんばる気力がなくなります。

こんなことになるくらいなら、やってあげた方がよほどマシです。どうしてもできないときはやってあげて、たまにちょっとでもできたらほめて、少しずつ手を離していけばいいのです。もちろん、自分でやろうとしているのに時間がかかっているだけというときは、待ってあげて自分でやらせてあげてください。

そのうちに子どもも成長して、だんだんできるようになります。子どもには自然成長というものがありますから、時間が解決してくれることも多いのです。

できないことを叱り続ける親よりも、いちいち叱らず気持ちよくやってくれる親の方が、かえって子どもはできるようになります。「やってあげると自立ができない」などと言って、子育てを不必要に苦しいものにするのは、もうやめようではありませんか！

~~~~~

●生まれつきの資質に沿って伸ばしましょう

人の才能や性格には生まれつきの資質があります。才能としては、運動神経の良し・悪し、数学の得意・不得意、片づけの上手、下手などです。性格としては、せっかち・マイペース、社交的・内向的、嫌なことは先にやる・嫌なことは後回しなどです。

子どもの生まれつきの資質を無理に変えようとするより、資質に沿って伸ばした方がうまくいきます。なぜなら、長所にしろ短所にしろ、生まれつきの資質は簡単には変えられないからです。

絵が好きなら絵を応援してあげましょう。「絵なんか描いてないで漢字を書きなさい」と自分の価値観を押しつけないで。運動が好きなら運動を、ダンスが好きならダンスを、メカが好きならメカを応援してあげましょう。

好きで得意なことを伸ばせばいい循環が始まります。毎日が楽しくなり生き生きしてきます。自分に自信がついて、他の面でもがんばれるようになります。

それと同時に、もう一方では苦手なことに目をつむる勇気が大切です。マイペースでのんびりしている子を叱り続けてもムダです。生まれつきのリズムは変えられません。マイペースな子は穏やかで優しくなったりすることが多いので、それでよしとしてください。

私の経験では、片づけの上手・下手もほぼ生まれつきです。640件の家を家庭訪問して、証拠はたくさん見てきました。片づけが苦手な子を叱り続けても簡単には直りません。

生まれながらに苦手なことは、親が叱り続けても簡単には直らないのです。直らないばかりか、深刻な弊害が出ます。よく叱られる子は、「自分はダメな子だ」と思い込み、何事にもやる気を失います。また、親の愛情を疑うようになり、その不安から衝動的に親に心配かける行動をしてしまいます。心配する姿を見て親の愛情を確認するのです。

というわけで、生まれつきの資質に沿って伸ばすには、一方で得意なことを応援しつつ、もう一方で苦手なことを叱り続けるのはやめて、目をつむることが大切です。

この2つめが難しくて、1つめはできても2つめができない親が多いのです。2つめも実行することで子どもは大いに伸びます。子育てでは思い切って目をつむる勇気が本当に大切です。

●子どもの短所は、実は長所である

とかく親というものは、子どもの短所ばかり数えてしまうものです。でも、長所と短所はつねに表裏一体ですから、短所に見えることが見方を変えれば長所でもあるのです。

例えば、宿題をやらないまま平気で遊べる子がいたとします。これは親にとっては短所に見えます。なぜなら、親にとっては不都合で不快なことだからです。でも、見方を変えれば楽天的で神経が図太いということでもあります。

実は私も子どもの頃こういう性格でした。今、教育評論家という仕事をしていて、こういう性格だから続けられている部分があると感じています。

今、私は複数の原稿の締め切りが迫っていても、講演のときはそれを忘れて楽しく臨むことができます。大きな仕事重なって時間的に逼迫してきても、根底には「まあ、なんとかやるでしょ」という楽天的な気持ちが常にあります。

もし、私が”宿題をやってからでない”と楽しく遊べない”というような性格だったら、この仕事は続けられなかったかも知れません。

このように、現時点で親には短所に見えることも、子どもが長い人生を生きていく上では長所であるかも知れないのです。

例えば、「うちの子はマイペースで困る」という人がいますが、それは他人のペースに左右されないということですから、将来も自分自身の人生をしっかりと着実に生きていくことができるはずですよ。

やるのが雑だとか、だらしないなどというのは、細かいことは気にしない大らかな性格ということですよ。こういう人が大きな仕事を成し遂げるのです。

落ち着きがないというのは行動力があるということでもあります。将来、きっとエネルギーに活躍するはずですよ。また、飽きっぽいというのは好奇心が旺盛ということでもあります。将来、いろいろなことに積極的にチャレンジしていくはずですよ。

子どもの短所は、親であるあなたにそう見えるだけなのです。それは、今のあなたの都合や快・不快の反映に過ぎません。一度その見方を疑ってみてください。子ども本人の立場に立って、そしてもっと長いスパンで見てください。

~~~~~

### ●促成栽培と大器晩成

今の子育て・教育は、子どもの促成栽培を目指しすぎです。小さいときから子どもを完成品にしようとして、「この子はこれができない。あれもできない」と焦っています。

それで、親も先生も「なんで〇〇ができないの。〇〇しなきゃダメでしょ」と否定的な言葉で叱ることが増え、その結果子どもは自信をなくします。すると、自己否定感にとらわれ、チャレンジもできなくなるし、がんばるエネルギーもなくなってしまいます。

私はもっと”後伸び”とか”大器晩成”などの言葉を大切にして、子どもを長い目で見て欲しいと思います。

坂本龍馬は子どものころ泣いてばかりの弱虫でしたが、大人になってからは体も丈夫で精神も雄大になり、大きな仕事を成し遂げました。

進化論を打ち立てたダーウインは、子どものころ昆虫採集や狩りに没頭し、学校の成績もひどかったそうです。でも、後には歴史に名を残す大学者になりました。

エジソンは学校に来るなどと言われ、岡本太郎も学校から追い出されて転校を繰り返しました。でも、後には大発明家や大芸術家になりました。

そして、こういう例は有名人だけではありません。私たちの周りにも、子どものころはぱっとしなかったけど後で伸びたという人はたくさんいます。

私の同級生でも、子どものころ勉強がまったくできなかったけど、今はIT関係の会社を5つ経営しているという人がいます。

私の教え子でも、子どものころはけっこう手がかかって大変だったけど、尻上がりにぐんぐん伸びて、今は公私ともに大活躍しているという人が何人もいます。

今はぱっとしなくても、やるべきことをやらずだらしがなくても、勉強や運動が苦手でも、それは世を忍ぶ仮の姿です。子どもはみんな後伸びの可能性を持っているのです。

それが花開くために大切なのは、否定的に叱るのをやめて、よい部分を見つけてほめて、自分に自信を持てるようにしてあげることです。自己肯定感があればチャレンジもできるし、がんばるエネルギーもわいてくるのです。

~~~~~

■■■■無料メールマガジン■■■「親力で決まる子供の将来」■■■■■■■■■■

なんと、4万5000人以上が読んでいます教育界最高の超人気メルマガ

23年の教師経験を生かし、子育て、しつけ、勉強法、家庭教育について具体的に提案。効果のある楽勉グッズもたくさん紹介しています。みなさん、ぜひお読みください。ブログ「親力講座」もお薦めです。

メールマガジンの登録と解除は、下記HPより30秒。(講演のお問い合わせもHPから)

<http://www.oyaryoku.jp>

親力

検索



【家庭数】

明正小学校 PTA 会員の皆様

世田谷区立砧中学校 PTA 会長 松岡 文子
世田谷区立明正小学校 PTA 会長 高取 亮太
砧中学校、砧・明正・山野小学校
砧の学び舎 4 校合同家庭教育学級委員会
明正小学校 家庭教育学級委員長 古藤 万里子

砧の学び舎 第 7 回 4 校合同講演会 開催報告 「叱らないしつけ」と「らくらく勉強法」

今年度も残り僅かとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

去る 1 月 23 日(月)に成城ホールにて『砧の学び舎』家庭教育学級を開催いたしました。総勢 250 名の方にご出席いただき、大盛況で終えることができました。スタッフ一同心より感謝申し上げます。今回は親野智可等先生をお招きし、「叱らないしつけ」と「らくらく勉強法」をテーマに講演していただきました。その内容とご来賓の皆様のごあいさつを紹介させていただきます。

平成 29 年 1 月 23 日(月)

開催場所 :成城ホール

講師 :親野 智可等(おやのちから)先生

プロフィール :教育評論家。公立小学校で 23 年間教師を務める。

『ドラゴン桜わが子の「東大合格力」を引き出す 7 つの親力』、
『叱らないしつけ』などを著し、全国の学校の PTA、市町村の
教育講演会で大人気となっている。



<参加者数>

砧中学校 42 名、砧小学校 37 名、明正小学校 62 名、山野小学校 97 名、来賓 12 名
合計 250 名

<ご来賓の方々のごあいさつ>

砧中学校 PTA 副会長 三海 奈々 様

私は 3 人の子どもを育てていますが、朝は慌しくついつい声を大きくしてしまうことがあります。送り出した後、もっと面白い方があったかなとか、もう少し自分の心に余裕を持たせたらと思うことが多くあります。今日はお話を伺って、私自身の親としての成長につなげることができればと思っております。ぜひ皆さんと一緒によい時間を過ごしたいと思います。

砧中学校 宇野 亮 校長先生

今日は「叱らないしつけ」と「らくらく勉強法」という講演内容で楽しみにしてまいりました。職場には若い先生もいますので、社会人としてのマナーや教員としての心構えなどを伝えていかなければならない場面も多く、いろいろな接し方があると思っております。子どもたちに同じことを指導するにしても、引き出しは多くあったほうが良いと思いますので今日は本当に楽しみです。よろしくお願ひします。

教育委員会 社会教育指導員 平田 一 様

本日はこのような素晴らしい会場で、また多数ご参加いただきましてありがとうございました。

親野智可等先生には、家庭によくありがちな場面を具体的にご指導いただきました。それぞれが心に留めたことをご自宅で実践されたいのかなと思います。いろいろなしつけがございしますが、まずはわが子になって欲しい子ども像を親が行動で示していくのが大切だと思います。親野先生、力いっぱいのお話ありがとうございました。

<講演内容の紹介>

1 はじめに

子育ては、ほかにかえがたい楽しさがある一方で「話を聞かない、勉強してくれない、やらなくていいことをする、しつけができない」とお悩みはたくさんあると思います。「まだ～していないの?」「～しなきゃダメでしょ!」「何度いったらわかるの!」という言葉がつい口をついて出てしまうことも多いはず。最近の児童学、児童心理学の研究により、こういった否定的な要素を伴う言葉には、大きな弊害があることがわかってきました。

① 子どもが自分に自信を持てなくなる(自己肯定感の損失)

伸びていこうとする芽を自ら摘み取ってしまう。何ごとに対しても、「どうせ自分なんかダメだよ」「できない、頑張れない」「どうせ無理だよ」と自己否定してしまう。

② 不愉快(心の窓が閉まる)

否定的な言葉をかけられた子どもは「自分が咎められた、自分が否定された」と感じてしまう。頭ではわかるけれど、自分を否定されてしまうと素直に聞くことができなくなってしまう。

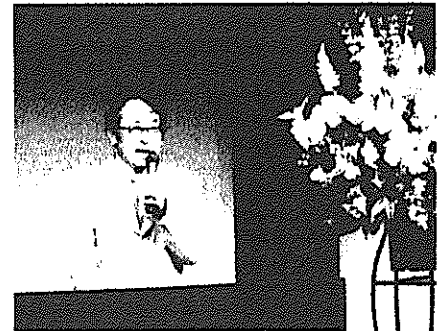
③ 不信感(親からの愛情が不足していると感じる)

「自分のこと嫌いなんだ」「自分は愛されていないのかも」
臨床心理学によると、愛情不足の子どもは不安で仕方なく、「不安を解消したい」という強い衝動にかられる行動に出してしまう。

④ 不安を解消する行動(愛情確認行動)

反社会的行動。火遊び、盗み、落書き、物を壊す、夜の街を徘徊、出会い系サイトにはまる、弟妹やクラスの弱い子をいじめる、などといった問題行動を起こす。そして、親が心配したり、困惑して涙を流したり、困っている姿を見て、子どもは「自分のことを心配してくれている」「これは愛されている証だ」と確信を得ようとする。

その結果、親子関係が崩壊! では、どうしたらよいの?



2 合理的な工夫「楽勉」～生活や遊びの中で楽に楽しく勉強する方法～

・本物体験

たとえば、実際に自分の目で本物の土星を観察してみる。後日、テレビで「土星で新しい衛星が発見されました」というニュースが流れた際に、「土星?! 知っているよ!」と興味が引かかってくるのです。

・知識の杭

土星を自分の目で見たという、非常にインパクトのある体験が、「知識の杭」となります。流れる川に1本の杭を打つと、流れてくる物が杭に引かかってきます。知識の杭を打ち込めば、興味の引っ掛かりがどんどん大きくなります。勉強が好きでよくできる子は、こういう杭をたくさん持っていますね。

・学習漫画

これは素晴らしいです。一家に100冊学習漫画があるとよいですね。漫画は読みやすいし、知識は膨大です。イラストや漫画の中で記憶するのでビジュアル記憶もできる。非常に効果的です。

・図鑑

最近のテーマ型の図鑑は子どもが面白いと感じるものがたくさんあります。「くらべる図鑑」「なぜ?の図鑑」「ひみつの図鑑」など。図鑑は一家に50冊あれば、「勉強しなさい!」というよりよほど知識が高まります。

・地図・地図帳・地球儀

たとえばCMなどで見た場所を地球儀で探して、地図帳にマーキングします。同じCMを見ると、映像が無意識のうちにフラッシュバックします。これが、知識の定着となるのです。

・かるた

星座かるた、ことわざかるた、俳句かるた、短歌かるた、部首かるた、画用紙ですぐ作ることができます。頭ごなしに「覚えなさい」というより、何度か遊べば自然と覚えてしまいます。

・楽勉ポスター

世界の暖流寒流ポスター、歴史の楽勉ポスターなど多種多様なものがあります。

・小学生・中学生新聞

6年生を教えていて子どもたちが一番つまらないと感じているのが公民分野でした。公民分野を子ども向けにわかりやすく書いている子ども新聞は、大人でも勉強になります。

・一点突破全面展開

得意分野に全力投球することです。1つが伸びれば自信がつき、自己肯定感を高くしてくれます。苦手なことへの自信にもつながります。たとえば、さかなクン。彼のお母さんはさかなクンの好きなことを全面的に応援しました。彼は大好きな魚のことを一生懸命覚え、研究し、頭がどんどんよくなりました。好きなことに夢中になると、シナプスがどんどん増え、それが多いほど頭がよくなります。脳の性能がアップしたときに勉強をすれば頭にスイスイと入っていきます。

・とりあえず準備方式、勉強に取り掛かりやすくなる方法

勉強に取りかかるハードルをさげる工夫をしましょう。あるお母さんは、玄関に口が広めの浅い箱を置き、遊びに行く前の子どもに、「遊びから帰ったらカバンの中身をこの箱に全部出そう」と声をかけます。すると、遊びから帰ってきたときに宿題が出ていると手に取りやすくなります。次の一步としては、勉強に必要なものだけ取り出して机に乗せておくのもよい方法です。

・とりあえず一問方式

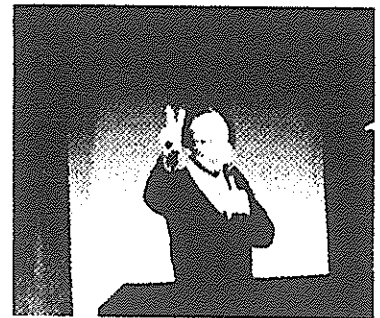
子どもに「宿題一問だけやったら遊んでいいよ」と声をかけます。一問やるときに「だいたいこのくらいだな」と、全体の見通しがつきます。見通しをつけてから遊ぶと、帰ってから取りかかる際のハードルがさがり、やる気がわいてきます。

・模擬時計

子どもは目に見えない時間という量を扱うのが苦手です。ですから「見える化」してあげるのです。アナログ時計の周りに、針のない時計の絵を画用紙に書いて貼り、守らせたい時刻を示す針を書きこみます。2つの時計を見比べることで、残り時間が可視化されひと目でわかります。「あと3分よ」というより、時間に敏感になります。また決めた時間に、自分で決めた音楽を流し、勉強を始める合図にします。学校でも使っている方法ですね。子どもは条件反射に弱いのです。

3 「子どものうちなら直せる」は間違い

このように「合理的な工夫」は効果の高い方法です。しかし、叱っても、工夫しても、なかなか直らない子もいます。スローペース、なんでも後回しにする、内向的、片付けができないなど…これらはみな生まれつきの要素が高いのです。子どもの脳は乾いたスポンジと同じで、新しいものを吸収するのは早いです。しかし、持って生まれた資質を作り変えるのは非常に難しく、強烈なモチベーションや強い意志力、そして工夫する能力が高くないとできません。だから「子どものうちなら直せる」というのは正しくありません。



4 酸っぱい葡萄効果

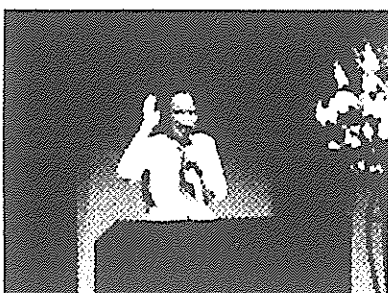
イソップ童話で葡萄が取れず諦めた狐が最後にいう言葉が「あの葡萄はきっと酸っぱいから僕は食べないのだ」です。成長の時期はひとりひとり違います。人間の能力は、空間把握や言語能力、方向感覚などがバラバラに成長していきます。「今、直さなくてもいい」これが子育てのコツです。直らないときは諦めてください。「諦める」とは、みなさんが楽しみながら代わりにやってあげることです。叱りながらやると、それがその子の中で価値の低いものになってしまいます。「酸っぱい葡萄効果」が働くのです。葡萄の価値をさげることで自分のエゴを保つのです。明るく楽しくやってあげれば、子どもは「～は楽しいものなんだな、ありがとうお母さん！」と、素直な気持ちになります。この方がよっぽど自立します。やってあげると自立できないというのは間違った思い込みです。また親や先生がガミガミと叱って、子どもの自己肯定感をボロボロにしてしまうと、スイッチが入る時期が来ても自分で押すことができません。

5 言葉の工夫

否定的に咎めずに伝えること、これがとても大事です。現在はコーチングやアサーションなど、いろいろなノウハウがあります。ぜひ学んでください。「～しないとダメ！」ではなく「～するといいよ」に変えて、褒めてあげてください。

6 共感の大切さ

共感を大切にしてください。子どもの話を共感的に聞いてあげると、子どもは全部話せます。全部話すと子どもはスッキリするし、親にも理由がわかります。共感がないところで励ましたり、アドバイスしたりしても、子どもは「この人は自分がどんなに苦しいかわかっていない」と思ってしまう。「A君がB君を叩いた」とか「兄が弟を叩いた」などの話は、別々に聞いてあげてください。正論を押し付けても、子どもを変えることはできません。子どもが気持ちを処理できないだけです。その気持ちを処理してあげられるのは「共感」です。「そうだったの、嫌だったね。お兄ちゃんも大変だね」と共感してあげると、子どもは嬉しいしスッキリする。「お母さんは／あの先生は、わかってきている」親や先生への信頼感が、グーンと高まるのです。



7 最後に

◎「親力で決まる子どもの将来」無料メールマガジン

登録・解除は <http://www.oyaryoku.jp>

◎「親力講座」というブログもやっています。

ブログ内記事検索もありますので、ご利用ください。

女の子・男の子脳についても書いています。興味のある方はぜひ見てください。皆さまの安らかな生活を願っています。

<参加者アンケート報告>

アンケート提出数 192 枚

1.今日の講演会はいかがでしたか。

- | | |
|-------------|------|
| ① 大変よかった | 179名 |
| ② よかった | 13名 |
| ③ よくなかった | 0名 |
| ④ どちらともいえない | 0名 |

2.講演時間はいかがでしたか。

- | | |
|----------|------|
| ① 長かった | 3名 |
| ② ちょうどよい | 126名 |
| ③ 短かった | 61名 |

3.今回の企画内容やイベント運営などについてのご意見、ご感想など。(一部紹介)

- ・ お話が面白くて、あっという間に時間になってしまいました。早速、メルマガに登録して、さらに勉強したいと思います。
- ・ とても楽しく、大切なことがぎっしり詰まった素敵なお話でした。今日から子どもたちにできるだけ文句をいわずに向き合っていこうと思います。お父さん方にもぜひ聞いていただきたいので、土曜日の開催も期待します。
- ・ 子どもは自分を変えることができない→やってあげる。共感が何よりも最優先。目からウロコでした。今後あらゆる場面で肝に命じておこうと思います。
- ・ 子どもの脳はスポンジで新しいものは入るけど、持って生まれた資質は簡単に変えられないことがわかり、接し方を考えようと思った。
- ・ 子どもの苦手(起きられない、片付けられない)は子どものうちに直さなくていいのだとわかり、気持ち楽になった。
- ・ 共感することの大切さと、子育てはもっと長期的な視野を持たなければいけないと改めて感じました。子どもたちの自己肯定感を高められるように頑張りたいと思います。
- ・ 「一番の罪は、親が子どもの自己肯定感を奪うこと」心にグサッと刺さりました。
- ・ リズムある話し方で、体験や実践的な内容が多く、わかりやすく楽しかったです。
- ・ 難しいことは後回しにし、伸ばせることを先に目を向ける、心に残りました。
- ・ 講演会がとてもよかったので、ブログもチェックしてみます。
- ・ 学習漫画 100 冊、図鑑 50 冊、カルタなどすぐに購入したいです。
- ・ それぞれ個性があり、その子にあった対応が大切だと思いました。
- ・ 自分のことを考え直す機会となりました。
- ・ 反省と発見に満ちた有意義な時間でした。
- ・ 時間が短く、もっとお話を聴きたかったです。
- ・ 質疑応答があれば良かったです。



教育現場で活躍された親野先生は、日常よくありがちな場面を例に交えながらお話くださり、笑顔あふれる楽しい講演会となりました。子育てのヒントを得られた方も多かったのではないのでしょうか。ぜひ少しでも実践し、より楽しい子育て、そして子どもの成長につなげていただければ幸いです。

ご参加くださった皆様ありがとうございました。

家庭教育学級委員一同